

同窓会員向け Informilo

2003年よりRH同窓会員向け Informilo を毎年8月に発行しており、今年も8月19日に発行しました。今回の内容は、世界大会が中心になりました。

Informilo は <http://esperanto.or.jp/info/> に掲示しています。

インターネットを見れない方は、80円切手と宛名が書かれた封筒をお送りいただければ、郵送します。



Korvo kaj
Kvazaŭhomo

La Harmonio 214号(11月発行)の原稿締切は 11月3日(土)

Ĝis antaŭ la 3-a de Novembro 2007, bonvolu sendi vian manuskripton al la redakcio por la numero 214, kiu eldoniĝos en la venonta novembro.

MORIKAWA Kazunori, 13-8 Sirie, Oyamazaki-tyo, Kyoto-hu, 618-0071 Japanio

FAX +81-75-955-1627 Retadreso: kz_morikawa@yahoo.co.jp

La Harmonio 213号 2007年9月8日発行

編集発行 Rondo Harmonia (国際語教育協議会)

* 組織委員会書記局

〒631-0815 奈良市西大寺新町 1-2-31-703 竹森浩俊

FAX 0742-36-4302 電子メール takeh703@deluxe.ocn.ne.jp

* La Harmonio編集部・財務担当

〒618-0071 京都府大山崎町尻江 13-8 森川和徳

FAX 075-955-1627 電子メール kz_morikawa@yahoo.co.jp

* ホームページ <http://esperanto.or.jp>

* RH情報誌のホームページ <http://esperanto.or.jp/info/>

* RH会費(会計年度 1月1日から12月31日まで)

RH会員お一人の場合

特別会費 10,000円 [特別会費は2008年度から廃止]

一般会費(La Harmonio PDFダウンロード) 2,400円

一般会費(La Harmonio 印刷物郵送) 3,600円

ご夫婦ともRH会員の場合

特別会費+家族会費 11,800円 (10,000+1,800)

一般会費(LH PDFダウンロード)+家族会費 4,200円 (2,400+1,800)

一般会費(LH 印刷物郵送)+家族会費 5,400円 (3,600+1,800)

* 会費払込先 郵便振替口座 01050-3-11902 加入者名「国際語教育協議会」

Septembro 2007

La Harmonio

N-ro 213

Tutlanda Organo de Rondo Harmonia
Eldonejo : Rondo Harmonia

<< 目次 >>

横浜・世界大会に1,901人参加

概要、Movada Foiro参加、講演、RH参加者 2~7 ㊦

参加者の報告と感想 8~26 ㊦

山口百合子さん、山口真一さん、笹沼一弘さん、森川和徳さん
竹森浩俊さん、広高正昭さん、盛脇保昌さん

エスペラント界の行事 26~28 ㊦

今年の日本大会(10月26日~28日、群馬県)の分科会で、『エスペラント・ミニ大学』を開催します。

世界大会のMovada Foiroで RHの活動を展示

世界大会第1日目(8月4日)夜にMovada Foiro(活動展示交流会)が行われ、RHも参加し、RHの活動をアピールしました。



(上) Movada Foiroには75団体が参加。会場には数百名が集まり、大変混雑しました。 RHのブース(右)

(4㊦参照)



横浜・世界大会に 1,901人参加

(1) 概要

第92回世界エスペラント大会 (La 92a Universala Kongreso de Esperanto) が8月4日(土)～11日(土)に横浜市で開催され、盛会のうちに終了しました。参加者数は57カ国と3地域から1,901人。その内、日本からは1,024人です。RH関係者は30人弱の方々が参加しました。(6頁参照) 次のホームページに報告書(日本語)が掲載されています。

<http://www.k4.dion.ne.jp/~uk2007/japane/gheneralo.htm>

UEA(世界エスペラント協会)の主な決定事項は次のとおりです。

UEAの新会長はインドのProbal Dasgupto氏。

日本の堀泰雄さんがUEAの7人の理事の一人に選ばれました。

再来年の2009年の世界大会は、ザメンホフ生誕150年であることから、ポーランドのBjalistoko(ビヤウストク)市で開催することが決まりました。(来年2008年はオランダ ロッテルダム市)



(左の写真)

JR桜木町駅を降りると、「みなとみらい21」へのゲートが見えます。ゲートの上に世界大会の横断幕が掲げられました。

ここから順路を500m程度歩けば、世界大会会場のパシフィコ横浜に着きます。

なお、左側の高い建物は、横浜ランドマークタワー。

日本大会のRH主催分科会に参加しよう!

第94回日本エスペラント大会の分科会で『エスペラント・ミニ大学』を行います。

日時: 時間はまだ決まっていますが、

10月27日(土)午後4時～28日午前中の中の1時間30分

発表予定 今泉久典さん(盛岡) 中小企業白書

森川和徳さん(京都) 電気製品の環境保証

関東や東北におられる方は参加されませんか。また、何か発表されませんか。

この分科会へ参加される方は、下記宛てご連絡ください。

〒618-0071 京都府大山崎町尻江 13-8 森川和徳

FAX 075-955-1627 電子メール kz_morikawa@yahoo.co.jp

日本大会のホームページ <http://members.jcom.home.ne.jp/verda/jek94.htm>

第5回アジア・エスペラント大会

期日: 2008年2月11日(金)～15日(月)

会場: インド共和国 ベンガルール市(南部の工業都市)

ホームページ <http://geocities.com/bharato/eventoj/ak2008/ak2008.htm>

第93回世界エスペラント大会

期日: 2008年7月19日(土)～26日(土)

会場: オランダ ロッテルダム市

ホームページ http://www.uea.org/kongresoj/uk_2008.html

UEA(世界エスペラント協会)創立100周年を記念
(1908年4月28日創立)

第95回日本エスペラント大会

期日: 2008年10月11日(金)～13日(月)

会場: 和歌山県民文化会館

第94回世界エスペラント大会

期日: 2009年夏

会場: ポーランド ビヤリストク市

L.L.ザメンホフの生誕150周年を記念
(1859年12月15日生)



Kよりすばらしかった。」という発言が印象に残った。

5日は、ここまでとし、翌6日は、仕事。5時過ぎに終了後、ZAIMへ寄ってから、パシフィコ横浜の会議センター5階へ行った。そこには、Bankedo待ちの人たちが大勢いた。そのうちの何人かと話した。ヨーロッパやアメリカのエスペランティストより、アジアのエスペランティストの方が話しやすかった。

私は、世界各国の言葉に興味があり、エスペラントを始める前に旧ソ連から、200以上の言語の説明と記事例が記載された本を取り寄せて持っていたが、今回、この本を持参していた。4階にまだ残っていた、パキスタンのGhulam Nabi Parvaz氏にこの本を見せたところ、次から次へと、これも読める、これも読めるとアラビア語、ヘブライ語、ペルシャ語など、ヨーロッパの言語も読み、びっくり。世の中には、このようなすごい人もいます。それもエスペランティスト。ということに深く感心した。

深い感動を覚えてパシフィコ横浜を後にし、来年のオランダ、再来年のポーランドのUKにもぜひ参加したいとの気持ちを抱いて、私の初めてのUK体験が終了した。

(終)



世界大会の主会場
パシフィコ横浜
会議センター

世界大会では4階と5階
が使用されました。



横浜みなとみらいホール
での開会式
(Solena Inaiguro)

2日目、8月5日(日)
午前10時～12時

(左)二階席から撮影



エスペラント界の行事

第48回東北エスペラント大会

期日：10月13日(土)～14日(日)

会場：土湯温泉「向滝」(磐梯朝日国立公園内)

問合せ：佐藤礼子さん(TEL 024-583-5124) 矢崎陽子さん(TEL 024-553-8464)

第94回日本エスペラント大会

期日：10月26日(金)～28日(日)

会場：松の井ホテル(群馬県みなかみ町) <http://www.matsunoi.com>

テーマ：Kion azianoj atendas de Japanio? Kian rolon Japanio ludu en Azio?

(アジアの期待、日本の役割)

参加費：7,000円(参加費は事前支払い。宿泊・食事などの費用は含みません。)

記念品：「エスペラントと私」(アジア版)

問合せ・参加申込み先

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町12-3 (財)日本エスペラント学会

TEL 03-3203-4581 FAX 03-3203-4582 電子メール jek1@jei.or.jp

郵便振替口座 00100-4-400372 「日本エスペラント大会」

(2) 世界大会のMovada Foiroに参加

世界大会の1日目の8月4日(土)の午後6時～9時に、Movada Foiro(活動展示交流会)が行われました。Movada Foiroにはエスペラントの75団体が展示しました。(19頁下を参照)

RHの展示では、RHの活動を紹介するポスター10枚をパネルに展示し、エスペラント・ミニ大学の4講演を収録した冊子を配布しました。

ミニ大学の冊子の内容は次のとおりです。



(A5判、28頁)

[タイトル]	[執筆]
Diferencoj inter lingvoj konsideritaj el la vidpunkto de perceptado de parolsonoj (スピーチ音知覚の言語による違い)	永田 博
Rehabilitacia Medicino (リハビリテーション医学)	泉 従道
RFID, ĝiaj principoj kaj aplikoj (RFIDの原理と応用事例)	森川和徳
Historio de Familia Registro en Japanio (日本における戸籍制度の歴史)	笹沼一弘

240円(印刷費+郵送費)分の切手または現金を編集部(28頁参照)に送金していただければ、冊子を郵送します。なお、PDFファイルのダウンロードは無料です。 <http://informo.hp.infoseek.co.jp/#UK2007>

(3) 世界大会の講演

RH会員3名の方々が講演されました。

柴山純一さん(横浜)

柴山さんは本大会のLKK(国内大会委員会)委員長でも活躍されています。

齢化したエスペラント運動の現実と比較したとき、ちょっと違うかなと感じた。エスパー口斉唱では、3番まで歌っていた。1番しか覚えてないので、2番、3番は歌詞を見ながら歌ったが、今後は、2番、3番も覚えようと思った。

開会式終了後、江口さん(旧姓藤本さん)から電話があり、一緒に昼食を食べようということになり、江口さんは山本さん(旧姓大前さん)、塚本さんと共に行動していたので、元広島出身RH-anoj 3人に塚本さんを加えた4人で、昼食を食べた。山本さんと塚本さんとは広島を離れて以来だから、おそらく28年ぶり。なつかしく、昔やその後の話に花が咲いた。昼食に入った店には外国のエスペランティストも来ていたが、メニューの値段が漢字で書かれているので分からないと言っていたので教えてあげた。ゆっくり昼食をとった後、江口さんが、ZAIMで午後4時から開催される「朗読の夕べ エスペラントの詩×日本の詩」を見に行こうというので、4人で見に行った。ZAIMへは、みなとみらい線でみなとみらい駅から2つ先の日本大通り駅で降りて行った。ZAIMでは、一般人のたち向けの展示をしていて、番組も一般人向け。エスペラントの展示を見て、3時過ぎ頃から、当日参加チケット入手の列にならんだ。しかし、客が続々と続き、次々と椅子を増やして、結局、230人も出席し、満員の状態だった。クロアチアの小説家で急遽代役となったスポメンカ・シュティメツ、ハンガリーの若い詩人、イシュトヴァン・エルティル、谷川俊太郎の三人に日本のエスペランティスト北川久、臼井裕之、泉幸男の三人が、エスペラント詩と谷川氏の詩を、それぞれエスペラントと日本語で朗読した後、対談するというプログラム。これはよかった。谷川俊太郎の朗読を生で聞けたのも感動したが、臼井裕之の感情を入れ込んだ酔っ払いのエスペラント詩もよかった。私は残念ながらエスペラント詩がすぐに理解できるレベルには達しておらず、すぐに深い理解はできなかったものの雰囲気は十分に感じ取れた。詩が生まれる前の段階というのは、言語によらないもののようなのだが、若い言語のエスペラントは谷川俊太郎には魅力的に感じられたようだ。ウィリアム・オールドの詩は、La infana rasoを拾い読みしていた私には、近いものとして感じられた。また、スポメンカ・シュティメツが、エスペラントこそ自分が表現できる場だとの言葉が印象的だった。写真禁止だったので、これらの人たちの写真は撮れなかったが、「<http://www.midnightpress.co.jp/>」に写真付きで記事が出ている。

終わってから、また、横浜みなとみらいホールへ行き、Nacia Vesperoを鑑賞した。本格的な古い日本の芸能と若々しい太鼓の演奏を堪能した。日本人の私も初めて鑑賞する日本芸能だった。終わった後、外へ出て、イタリアのエスペランティストと話したら、「すばらしい。今年のイタリアでのU

初めての横浜UKミニ体験記

盛脇保昌(長崎)

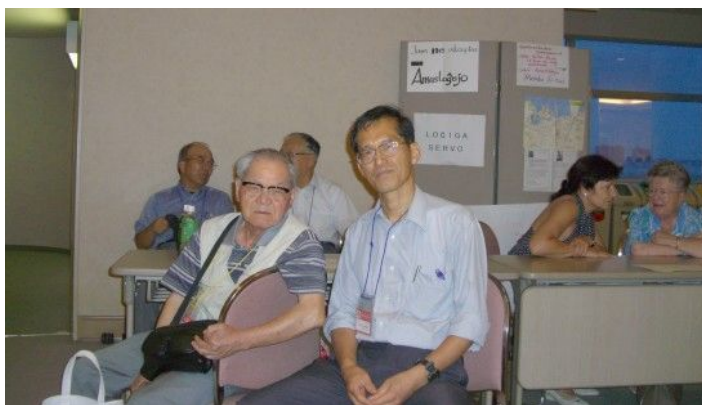
初めてのUK体験の報告。私は、1976年広島大学の2年になったときに、広島大学エスペラントクラブに入りエスペラントを始めたので、エスペラント歴は、もう31年。しかし、UKへは、今回の横浜大会が初めての参加。

今回は、開会式の8月5日と翌6日の夜のみの参加。それだけでも、UKはよかった！

なぜ、もっと早く行ってなかったのかとの思いで一杯。

前日、4日は、土曜日だが、会社は出勤日。休みにしたかったが、忙しくてできず、その日の夜の便で長崎から東京へ向かった。宿は、子供達の住居。社会人の娘と、大学生の息子が横浜近郊に一緒に住んでいる。その住居へ泊まった。

横浜でみなとみらい線に乗り、みなとみらい駅で降りて、受付会場のパシフィコ横浜の会議センター5階で受付を済ませ、開会式会場の横浜みなとみらいホールへ行った。長崎エスペラント会の会長の深堀さんを見つけ、隣に座って開会式を見た。開会式会場には、千数百人が来ていたのだろう。こんなに多くのエスペランティストが一堂に会するのを初めて見た。前UEA会長のイタリアのコレセッティ氏のエスペラントは分かりやすかった。各国の挨拶では、30カ国以上の人たちが挨拶したのだろう。その中に7月31日に長崎を訪ねてきて夕食を共にしたインドネシアのハザイリン氏もいた。途中で若い人たちの踊りがあり、若さを感じさせたが、日本の老



長崎エスペラント会の深堀会長と筆者(右)

Internacia Kongresa Universitato(国際大会大学)で講演。講演内容は、ご自身の専門である"Geografia Informo-Sistemo (GIS) en nia vivo"(現代生活における地理情報システム)。

次のアドレスに概要(エスペラント語)が載っています。

<http://www.uea.org/dokumentoj/IKU/07-sibayama.html>

また、Esperantologia Konferenco(エスペラント学国際会議)で、"La Proverbaro de Zamenhof kaj orienta saĝo laŭ Matuba Kikunobu (1903-1989)"(松葉菊延によるザメンホフことわざ集と東洋の知恵)も講演されました。次のアドレスに内容(エスペラント語)が載っています。

<http://www.hh.e-mansion.com/~sibazyun/sib-orig/ese-proverbaro-matuba.htm>



広高正昭さん(福岡)

Prelegoj pri Japanio(日本を紹介する講演)の中で、"Hajko - historio kaj arto"(俳句 - 歴史と技(わざ))を講演。エスペラントの俳句を始められたのは 2003年からとのこと。

発表内容は、ご本人のホームページで公開されています。

http://www.vastalto.com/hajko/Hajko-historio_kaj_arto.html

また、本号23号のご本人の報告もお読みください。



山口真一さん(名古屋)

Kleriga Lundo(月曜教養講座)の中の"Aziaj religioj"(アジアの宗教)で、仏教について、講演されました。また、BLE(国際仏教エスペランチスト連盟)の会合もまとめられました。

また、本号12頁のご本人の報告もお読みください。



(4) 世界大会に参加されたRH関係者 敬称略、()は旧姓

[住まい]	[名前]
ドイツ	坂口 節
岩手	今泉久典
千葉	江口(藤本)真由美
神奈川	山口(土井)百合子、山本(大前)美郷 木村明敏、柴山純一、柴山(小河畑)紀子、中田久人
静岡	杉山茂喜
愛知	大沢(西)智子、山口真一
滋賀	笹沼一弘
京都	田平正子、森川和徳
奈良	竹森浩俊
大阪	羽鳥康夫、三輪幸一
兵庫	藤本律子
岡山	永田 博
広島	森下(増本)峯子、石部敦子
愛媛	渡辺勝芳
徳島	長町重昭
福岡	広高正昭、荻野 明
長崎	盛脇保昌

Hajko prezentita en la UK

HIROTAKA Masaaki (Fukuoka)

La 92-a UK en Jokohamo estis mia duafoja UK post la 79-a en Seulo, 1994. Ĉi-foje mi havis unu taskon prelegi pri hajko antaŭ kongresanoj. En marto LKK-ano demandis, ĉu mi havas ideon prelegi pri hajko en la serio "Prelegoj pri Japanio". Kaj mi respondis jes.

Mi komencis verki hajkon en Esperanto en la jaro 2003. Mi ja scias, ke ne malmultaj eŭropanoj verkas hajkon en Esperanto, sed ĝenerale ilia verko estas hajko laŭforme, tamen ne estas hajko laŭenhave. Mi prenis kiel mian taskon, tion, ke mi komuniku la esencon de la hajko al la esperantistoj. Kaj aldone, mi pensis, ke estas bona ŝanco al mi precizigi mian penson pri la esperanta hajko.

Ekde aprilo ĝis junio mi pripensadis enhavon de la prelego kaj kolektadis materialojn. Mi dediĉis preskaŭ tutan julion por verkado de la prelegteksto. Dum la verkado certe mi povis konkretigi kaj precizigi miajn ideojn pri la hajko. Tamen la verkita teksto pli kaj pli grandiĝis. Mi antaŭsupozis, ke mi povos paroli pli malmulte ol la preparita teksto.

Prelegejo estis la salono Ludovikito kun 120 seĝoj, kiu estis preskaŭ plenigita de kongresanoj en la 7a de aŭgusto. Preparitaj 100 ekzempleroj da prelegteksto (resumo) estis tute elĉerpitaj.

Mi komencis la prelegon, citante la faman verkon de Baŝoo "Meigecu ja ...". Raportis popularecon de hajko en Japanio. Klarigis pri tio, kiel aprezi hajkon, atentigante la aŭskultantojn pri fiksformo, senrimeco, sezonvorto, tranĉo, kombinado kaj resonado. Priskribis historion de la hajko, komencante per rengao kaj hajkajo, citante Baŝoon, Busonon, Issa-on kaj Ŝiki-on.

La prelego daŭris 50 minutojn kaj sekvis ĝin 10 minutoj da demandoj kaj respondoj. Al mia ĝojo sinsekvis viglaj demandoj el la aŭskultantoj. Ĉi tio signifus, ke mi sukcesis vekti interesojn pri hajko en la aŭskultantaro. Reagoj estis ĝenerale bonaj. Do mi estas feliĉa kaj kontenta.

(Fino)

5頁もご覧ください。(編集部)

En la 2-a tago, post la malfermo, mi partoprenis en la programero pri Naciaj trezoroj en Japanio. Gvidanto estas Kobayashi Tsukasa, fama veterana esperantisto. Li klarigis kelkajn artaĵojn, Pentraĵo de Kokuuzoo-Bosatsu, Aŝura Statuo, Fuujin kaj Raijin Statuo ktp. Estis interese kompari japanajn konstruaĵojn kaj ĝardenon kun okcidentaj. Tre simpla estas japaneska: nur sablo kaj ŝtonoj en ĝardeno, teo-ĉambro estas tre eta kaj sen ornamaĵoj. Pompa estas eŭropeska: kiel la Versajla Palaco, komplika geometrika ĝardeno kaj multe da ĉambroj ornamitaj per lustroj, pentraĵoj, skulpturoj ktp.



(En la programero de japanaj trezoroj, gvidanto klarigis la faman pentraĵon, Ukijo “Postrigardanta Belulino”)

Post la kongreso, mi revojaĝis hejmen. En miaj oreloj restas iom longe esperantaj sonoj, eĉ kiam mi aŭdis ke najbaraj japanaj parolas kaj murmuris. Jes, ili vere parolas japane, ne esperante, sed mi aŭdis ke ili murmuris esperante. Tre strange !

(Fino)



(4) 参加者の報告 / 動向

本号に報告や感想を寄せていただいた方々の動向を下表に示します。

		山口さん (横浜) 8 p	山口さん (愛知) 12 p	笹沼さん (滋賀) 17 p	森川さん (京都) 18 p	竹森さん (奈良) 20 p	盛脇さん (広島) 24 p
8/3 (金)	大会前 遠足 最終日		-	京都 案内	-	-	-
8/4 (土)	Movada Foiro (4日参照)						-
8/5 (日)	Solena Inaŝuro (開会式)						
	Nacia Vespero (日本の 夕べ)					-	
8/6 (月)			Kleriga Lundo 総持寺 ガイド			-	-
	Bankedo (晩餐会)					-	-
8/7 (火)		ねこの手 交流会	総持寺 ガイド 仏教 分科会 仏教徒 交流集会		ねこの手 交流会	-	-
8/8 (水)			-	鎌倉 観光	-	-	-
8/9 (木)		鎌倉 観光	-	-	-	-	-
8/10 (金)			-	-	-	-	-
8/11 (土)	Solena Fermo (閉会式)		-	-	-	-	-

UK 場外編 ねこの手風エスペラント

山口百合子(横浜)

UK(世界大会)前前日(8月2日)、フランスから来るデニーザとカトリーヌを杉山さんと梶崎さんが成田に迎えに行ってくれました。その晩は黒沢さんと大島さんを交えて七人が我が家の近くの居酒屋で夕食会です。カトリーヌの障害者用特製の靴が脱げないと知って、途方に暮れましたが、靴をカバーするために居酒屋の人がビニール袋をくれて一緒にテーブルにつくことができました。

一方中華街で夕食会を計画して、連れ合い(山口希美雄)と前田氏阿部氏の三人がシベリア鉄道と新潟経由で到着するはずのロシア人タチアナとガリーナ、前田氏のメル友イタリア人夫妻を東横インで待ち合わせしていましたが、タチアナの提案でシベリア経由仲間の殆どの19人と一緒に中華街で夕食会をしたそうです。

翌日はデジカメを買いたいというタチアナを連れて連れ合いが量販店へ。ロシア語の説明書付が買えてご機嫌でした。その後自分の教える学生が卒業後就職することが多いという消防署を見学したいとのことで続いて消防署へ。とても親切に説明したり見せたりしてくれたそうです。次にねこの手のメンバーでプロのマッサージ師である梶崎さんの義弟のマッサージを梶崎さん宅で受けました。ガリーナと連れ合いは待つ間梶崎さんの手料理を食べたそうです。全て計画どおり。それから UK 受付のため会場へ。

一方デニーザとカトリーヌは「ねこの手ハウス」での絵手紙教室に参加しました。前もって先生の大島さんが説明をエスペラントで書いてくれました。山本美郷さんも来て通訳を手伝ってくれました。絵手紙が終わったらねこの手で昼食。当番スタッフの人達は張り切りすぎて火曜日のミニ国際交流会と間違えて20食分を用意してくれていました。少し前から厨房にはエスペラントの挨拶文がカタカナで書かれて貼られています。ねこの手ハウスをあげての歓迎体勢です。彼女たちは昼食後しばらくねこの手ハウ

自立支援の会グループ ねこの手 (代表 山口百合子)

高齢者や障害者を問わない、みんなの居場所、一生の会です。

<http://members.ytv.home.ne.jp/nekonotehouse/>



(Junularo dancis rondiĝante ĝis malfrue.)

En la 2-a tago antaŭtagmeze okazis la malferma ceremonio, kie du ne-esperantistoj salutis. Unu estas vicurbestro de Jokohamo, s-ro Kaneda, kiu anstataŭis la urbestron s-ro Nakata kaj alia estas profesoro Tsuda. Estas fama, unu el liaj verkoj "Strukturo de regado de la angla lingvo". Kongresa temo estas "Okcidento en Oriento: akcepto kaj rezisto". Li asertis ke oni devas rezisti kontraŭ usoniĝo, kaj revizii Kongresan temon kiel "Okcidento super Oriento".



(En la malfermo okazis danca spektaklo, kie dekoj da japaneskaj dancistinoj kaj dancisto dancis kun torditaj kaptukoj kaj hapioj laŭ la usoniĝa muziko.)

Ĉe la aliĝo al la Universala Kongreso

TAKEMORI Hirotosi (Nara)

Du tagojn, la 4-an kaj la 5-an de aŭgusto, mi aliĝis al la 92-a Universala Kongreso de Esperanto en Jokohamo. La ĉefa kongresejo estas en Pacifiko-Jokohamo.



(Kongresejo fotita ĉe la plej alta etaĝo de Jokohama Land Mark Turo)

Por mi, estis la unua fojo de aliĝo al UK. Do mi priskribetis miajn opiniojn jene. Laŭ la kongresa libro, pli ol mil okcent partoprenas el 57 landoj kaj ĉirkaŭ mil japanoj ! Tiu partopreno-nombro de japanoj estas preskaŭ sama kiel tiu de la 50-a UK en la jaro 1965. En programero, Movada Foiro, kie sepdeko da societoj prezentis sian agadon per afiŝoj, informfolioj, eldonaĵoj, fotoj kaj simile, Rondo Harmonia ankaŭ sinprezentis la historion per panel-ekspozicio kaj la Universitateton per broŝuroj. Multegaj homoj kolektiĝis kaj paroladis energie kaj aktive. Kaj ili ĝojis pro revidi. Fariĝas forte, ke multaj aliĝis al Esperanto-Movado, mi sentas. Laŭ tiu senco, vera estis la politiko de disvastigo de iama RH. Ankaŭ mi sentis ke volonteco subtenas la Movadon. Ĉirkaŭ tri cent helpantoj alkuris. En la 1-a nokto mi vizitis la alian kongresejon, kie junularo rondiĝis kaj dancis japaneske. Ĝis ĉirkaŭ la 22-a horo, dancoj daŭris kaj daŭris.

スの雰囲気浸って、UK 受付のためねこの手エスペラントの参加者阿部氏前田氏梶崎さん塩野さん私と一緒に会場へ。エレベーターがない弘明寺駅ですが、エスカレーターが車椅子利用者用になるということがわかって安心です。

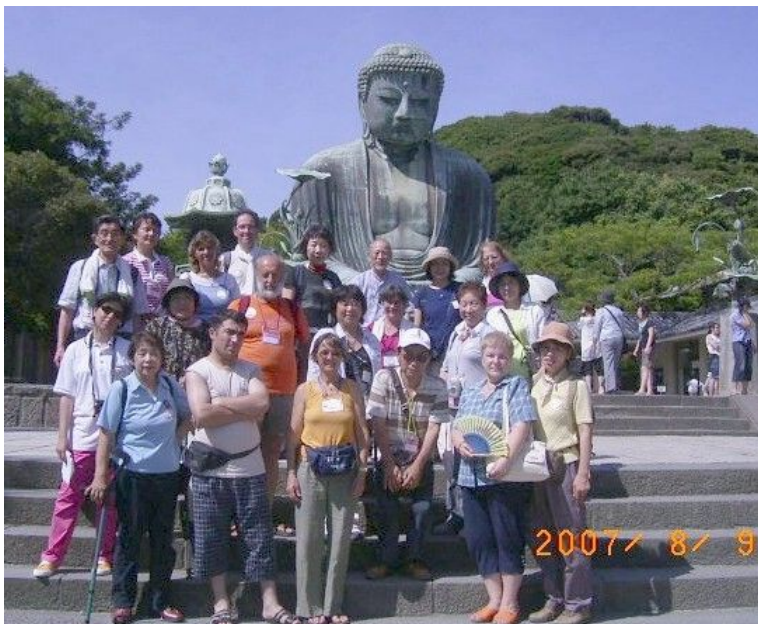
ねこの手エスペラントの人達全員がザイムでの無料講習会に出席しました。阿部氏がザイムとUKでの初心者向け会話教室とCseh-kursoに出て、ねこの手で習っているのと同じだと納得していました。阿部氏は自分はしゃべれないからとUKの行き帰りや会場に進んでカトリーヌの車椅子係りをしてくれましたが、彼女との交流が一番できたようです。

火曜日(8月7日)はねこの手国際交流会でした。フランス人のデニーザ、カトリーヌ、ロシア人のタチアナ、ガリーナの4人が外国人で、ねこの手エスペラントの11人とRH仲間の森川氏、ねこの手の会員でもある山本美郷さんとねこの手ハウスの大家さんでもあり16年前一緒にグレジオンに行ってもその後はエスペラントから離れている浅井さんの18名が勢ぞろいです。二階へ上がる階段に"Demetu ŝuojn ĉi tie, mi petas."と誰かが書いてくれています。タチアナをお願いしてあったように主導してもらって初心者の自己紹介からスタート。始めて3ヶ月の人もありますが、みんななかなか勉強してきた通りに言葉が出てきません。その後食事会。テーブルの上所狭しとスタッフが作ってくれた料理の数々が並んでいます。タチアナが今度ロシアでエスペラント教室を企画するからみんなで来ないかと提案してくれました。みなさんエスペラントとタチアナを身近に感じたのか、本気で行きたいという声が出ました。その場で黒沢さんは手作りマスコットを沢山、大島さんはうちわに描いた絵手紙をプレゼントして喜ばれていました。(次頁へ)



木曜日(8月9日)は江ノ電の鎌倉ツアーに20名で申し込んでありました。我が家に泊まっている4人以外には前田氏のメル友イタリア人のサンドロ夫妻、阿部氏のメル友、エリックと奥さん、連れ合いがタジキスタンで知り合ったサイドナビ達が外国人の参加者の予定でしたが、サイドナビがUKで知り合ったイラン人の女性も参加希望していると当日朝ホテルに迎えに行った連れ合いから電話があり、総勢21名の鎌倉ツアーとなりました。この日のために下見に行ってガイドさんの説明をメモして帰ってそれを連れ合いがエスペラントに訳し、写真を入れて小冊子を作ってくれたのをみんなに配りました。迷子にならないように三班に分けました。カトリーヌの車椅子を交代で押しながら彼女の班の人達は親しくなっていたようです。長谷駅で降りてUKに向かう人とそのままバスに乗って江ノ島へ行く人が大体半々でした。みなさんのお気に入りのカトリーヌは車椅子のため江ノ島の展望台まで上がれないのでUK会場へ行く事を勧めました。阿部氏と前田氏が交代で車椅子の世話をしながら会場へ行ったそうです。江ノ島へ行った人達の間で、連れ合いがサイドナビとイラン女性の世話をしながらはぐれてしまったので、初心者ばかりで何とかエリック達と話をしようと苦心したのが良かったと言っていました。(次頁へ)

注:「サイドナビ」はタジキスタン人の名前です。



前列右から、筆者、タチアナさん

遠足(Ekskurso)受付

エスペラントは一般的に礼儀正しいという認識でしたが、受付をやってみて、さまざまな人がいるのがわかりました。友人からもらったチケットを正式チケットに変えてくれとつこい人。(あやしいので、対応せず。)年齢で身体が不自由なためか、怒鳴り散らす人。過去の世界大会に参加しているのに、エスペラント語はあまり話せず、英語で対応した人。

受付は暇ではないかと最初は思っていました、忙しい3日間でした。

300名のボランティア

日本人参加者1000人のうち、3割の約300人がヘルパントとして、大会の裏方を支えたのは大変大きかったと思います。そのヘルパントの中核は60歳代のパワーがある方々です。時間の融通が効きますし、世界大会の経験も豊富。今年、日本で世界大会を開催できたのは、彼らのお陰でしょう。心配なのは、10年後、20年後です。

身体障害者や視覚障害者の参加

欧米の身体障害者や視覚障害者が遠足(Ekskurso)に積極的に参加されているのには驚きました。日本人だったら、他人に迷惑がかかるということで、障害者の方は参加しないでしょう。

欧米の方々は、良い意味で、自己主張が強いですね。

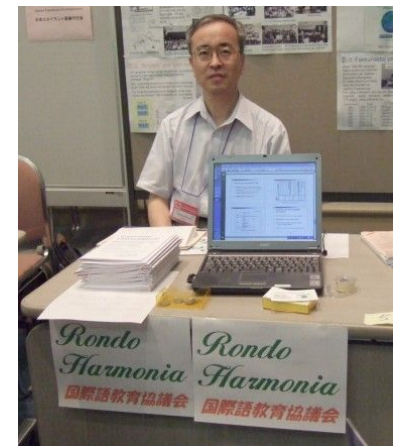
RH関係者が集まれる場所

RH-anoj が集まれる場所として、1日目(8月4日)のMovada FoiroでRHの出展を行いました。(4頁参照)この出展は一定の効果はありましたが、二日目以降は集まれる場所が作れませんでした。

インターネットの活用

大会の準備や運営で、電子メール、メーリングリスト、ホームページと、フルに活用されていました。

RHは1997年からインターネット・セミナーを開催し、先駆者となりましたが、後が続かなかったのは残念です。



Movada Foiroでの筆者

(終)

受付に座って考えたこと

森川和徳（京都）

大会ヘルパント(Helpanto)の一人として、1日目(8月4日)～3日目(8月6日)の大部分、大会半日全日遠足(Ekskurso)の受付に座っていました。受付では次のようなことを考えていました。

「国際文化祭」としての世界大会

世界大会はUEA(世界エスペラント協会)の大会ですが、UEAの会議は一部だけで、大部分は大会大学・教養講座・音楽・ダンス・文化紹介など、非常に多彩な文化祭でした。大会の受付でもらった Kongresa Libroを読んで理解する時間がなく、見逃したイベントが多そうで、ともかくも残念でした。
(次ページへ)

いて、だいぶ手助けをしていただいた。ツアーの開始時には全員そろわず、予定の新幹線に遅れたと聞いていたので、夕方、横浜へ向かう新幹線に乗せ終えるまでは、結構緊張のし通しだった。13年前に、韓国でのIJK(国際青年大会)の後のポストコング्रेसをRHで企画し、10人ほどを4～5人のメンバーで案内したことがあったが、そのときよりもはるかに重労働だったように思う。

翌日からのUKは、13年ぶり2回目の参加であった。もっとも、今回は最終日の前夜に到着し、閉会式しか出ていないので、実質的には今回が最初とっていい(今回は、その後のIJKへの参加が主目的だったので、UKのほうはおまけだった)。会期は8日間だが、現役の会社員としては、仕事を休んでの全参加はなかなか難しい。何とか中盤までの5日間だけ参加し、可能な限りいろいろなプログラムに出て、UKを大いに堪能した。

参加したプログラムの中でいちばんおもしろかったのは、アジア運動の分科会。13か国もの代表が次々とあいさつをしていく様子は圧巻だった。また、音楽や演劇などの夜の文化的な行事や、別会場での若者たちの集いも大いに楽しめた。5日目の鎌倉への1日遠足では、一般参加者であるにも関わらず、通訳をしたり、順路を指示したりと、またまたgastigantoになってしまったのはご愛嬌である。さて、次にUKに参加できるのはいつになることやら...

(終)

「ねこの手ハウス」では随分前からエスペラント部以外のスタッフや常連さんの間でもエスペラントムードに満ちていました。店内のあちこちに世界大会のお知らせポスターを貼り、何日か前当番スタッフの人に日記にエスペラントの一言を載せてほしいと言われて、日記にエスペラントの一言を載せ始めたり。何より盛り上がったのは当番スタッフの多くがエスペラント部の人のため日常会話にエスペラントが入ってきて、常連さんまで挨拶を覚えることになったことです。そういう雰囲気の中でねこの手の講座の一つであるよちよちパソコン教室の先生や土曜日の常連さんがその気になってザイムでの無料講習会に出席したようです。エスペラントが特別の人達だけのものではなく、日常に溶け込んでいたように思います。

いつも前向きなタチアナがねこの手エスペラントの中に3人少ししゃべれる人がいるからもっと上達させねばと言いましたが、進んでいる人達ではなくよちよちの人達に合わせるのがねこの手風なのだと思います。進んでいる人達は平行して別に勉強すれば良いと。ねこの手は一生の会なのだから、よちよち一生エスペラントを楽しみながら関わっていくのだと。

大病をした小林さんはねこの手エスペラントのメンバーの中でもなかなか覚えることができませんが、行く前は迷ったけど鎌倉ツアーに参加して本当に良かったと感想を言うのを聞いて何よりだと思いました。足が不自由なので階段が昇れなくてカトリーヌと待っていることを想定した文例を覚えるように言っていたのですが、カトリーヌの班の人達はみんな一緒に待ちながら交流を深めていました。

思った以上にねこの手のスタッフやエスペラント部の人達が自然体で外国人のお客さん達と交流していたのに驚きました。

「ねこの手ハウス」では知らない人がいないほど知れ渡ったエスペラントですが、今までと変わらずゆっくりのエスペラントの場でいこうと思っています。

Cerbo-trejnado を楽しみながら。

(完)



充実と疲労の日々

山口 真一 (愛知)

42年ぶりに日本で開催される世界エスペラント大会。三度めに日本で世界大会が開催される頃には、私はもう生きてはいないであろう。そんな思いが一つ。もう一つは、国際仏教エスペランチスト連盟(BLE)の事務局長として、さまざまな仏教関連プログラムを大会中に企画してみたい。そんなことで、四日間だけの参加を決めた。

一日目 8月4日(土)

Movada Foiro, RHはテーブル半分(一区画)を注文したが、私もBLEの責任者としてあまりテーブルを離れたくないので、少しだけよらせていただいた。70以上の組織がおしあいひしめきあい、テーブルを回る参加者の間をすりぬけるのも困難だ。テーブルの上の見本誌や本をのぞき込む人に声をかけたり、かけられたりして、しかも2時間半立ちっぱなし。ここでまず疲れてしまった。しかし、初めて顔を合わせるBLEのメンバーと親しく話すことができた。BLE副委員長のホセ・ヴェルガラとも初の顔合わせ。しかし彼は今回UEA(世界エスペラント協会)の幹部会員に選出されたため、「会長の意向によっては副委員長を辞めなくてはならなくなるかも」という。嬉しいのではあるが、貴重な人材をUEAにとられたくない。

二日目 8月5日(日)

開会式、Kleriga Lundo打合せ、藤本さんの講演、Faka Forumo、Nacia Vesperoに出た。Nacia Vesperoは、はっきりいって面白くない。ジャポネスクを強調しすぎている。雅楽やら日本舞踊やら、日本人でさえ理解できない。外国人が単なるエキゾチズムを喜んでいたのは昔の話だろう。Nacia Vesperoの後、既に夜9時ではあったが、BLE幹部会を開いた。時間が遅かったので、早々に切り上げざるを得なかった。

三日目 8月6日(月)

Kleriga Lundo。企画立案者の趣旨説明によれば、要するに教養講座とのこと。私は、第一ブロックの"aziaj religioj"の中で、儒教、圓仏教、大本教の代表者と共に、仏教について語る。儒教について話をしたソ・ジンスのことは、第一回日韓共同セミナーの参加者として記憶していた。25年ぶりの再会である。さて、ブロックあたり90分の時間のうち、各宗教に割り当てられた時間は15分しかない。30分は質疑応答にあてたい。ソ・ジンスの話ですでに20分が経った。次の番の私は15分で話を終えるため、レジュメを用

大会前遠足からの参加

笹沼 一弘 (滋賀)

私にとってのUK(世界大会)は、前日のアンタウコングレーソ(大会前遠足)から始まった。エスペランチストたちが地元を観光するのに顔を出さないわけにはいかないと、当日のガイド役を買って出ていたのである。一行は成田で集合して広島、岡山、姫路を回り、4日めの最終日に京都を観光するというスケジュールだ。ツアーには旅行業者とエスペランチストの添乗員が1人ずつついており、私の役割は、各名所の紹介をエスペラントでするといふもの。1週間前に、金閣寺・銀閣寺・清水寺の3か所を駆け足で下見し、前日は夜遅くまで原稿の準備をして、本番に臨んだ。

いよいよ当日。30人を超える大人数ということもあり、説明は行くまでのバスの中でだいたい済まして、実際の観光中は、きっちり見て回らせることが主な仕事になった。何せ、世界中から寄せ集めの観光団である。もともと統率を取りにくい上に、目が不自由な人、足が不自由な人、きつそうな階段や坂道は「行かない」人など、世話の焼ける人たちがいて(失礼!), 2人の添乗員はてんやわんや。幸い、海外在住の日本人が2人参加して



8月3日、金閣寺にある茶室夕佳亭(せっかてい)の前にて

右から

添乗員を務めた中津さん
(高槻エス会),
参加者のコモリさん,
筆者

属する真宗大谷派の横浜別院を会場として予約しておいた。仏教分科会で参加者を募ったので、例のアリーチャやソ・ギルスも参加してくれることになった。8か国から11人の参加を得て、いざ横浜別院へ。ここで予想以上に時間がかかってしまった。何しろ歩く時間が長いし、道もよく知らない。猛暑である。アリーチャはみちみち、いろいろなことを質問してくる。彼女は国際語学の教授だが、宗教哲学のようなことも教えているらしく、質問もいきおいその方面に片寄ってくる。私も好きなテーマではあるが、なにしろ暑くて歩き疲れているところに難しい質問をされるので、頭が爆発しそうになる。

別院到着。本当は休憩したかったが、到着が予定より遅くなってしまった。別院輪番(一般寺院でいうところの住職)と挨拶を交わし、即座に本堂で勤行へ。この日のために、エスペラント訳経典のテキストを用意してある。上座部経典についてはグンナ・ゲルモが、大乘系の嘆仏偈(たんぶつげ)については私が導師を勤めた。ところどころ、とちってしまった。もっと練習しておくべきだった。しかし、エスペラントでもちゃんと法要はできるのだと、エスペランチストにも輪番さんにも示せた意義は大きい。この後、部屋を移動して、浄土真宗についてのレクチャを受けることになっている。事前に、「別院スタッフのどなたかにレクチャをお願いします」と頼んでおいたら、輪番自身が話して下さるといふ。どうやら、別院とはいえ、スタッフといっても事務の女性と法務スタッフが一人か二人の小さな寺のようだ。私の近くの名古屋別院だと50人からのスタッフがいるので、イメージが違った。しかし、こういう企画をやらせてもらうのには、めんどくさい手続きがいらないので、かえっていい。

輪番のはじめの言葉。「みなさん世界エスペラント大会の参加者ということで、遠いところからようこそ。実は、私の義理の伯父がエスペランチストでありまして、大宰というのですが...」{え、大宰不二丸先生(JBLE二代目理事長)のことでは! ああ、それで待遇がよかったのか}こんな次第で、私が通訳しながら、輪番の講義が続いた。いちおう、自分の宗旨のことだから、輪番の話のたいていは通訳困難ではない。とはいえ、専門用語が続出したり、通訳の私にお構いなしに切れ目なく話されると、かなりの箇所端折ってしまったりもしたのだが。約1時間半の講義と座談。最後にアリーチャが「よく分かった」と言ってくれたのが嬉しかった。そして何よりも、自分自身が鍛えられたと感じた。

四日間はあっという間に過ぎ、心地よい疲労を感じながら帰路についた。

(終)

意してなるべく手際よく話をしようとしたが、やはり20分かかってしまった。次は大本教の奥脇さん。用意してきた原稿を読んでいる。まずい、この調子でいくと彼は30分を使ってしまうだろう。申し訳ないが、ストップを入れさせてもらった。そもそもが90分という時間設定が無理だ。とはいえ、しょせん教養講座である。パネルディスカッションではない。まあ、こんなものだろう。(6分参照)

総持寺半日観光。このコースは、当初私がLKKに提案したものである。その時は、軽い気持ちでいたが、いつのまにか私が責任者になっていた。この観光の目玉は、単なる拝観ではなく、参禅体験である。私は禅宗僧侶ではないので、坐禅については書物の知識でしかないが、それでも、観音のことを"la diino de indulgo"(大会第二報より)と訳されたのでは、たまったものではない。avalokitesvaroは専門用語だから観光客向けではないにしても、せめてbodisatvoにしないと。だから、私はコース責任者兼通訳ガイドを引き受けた。しかし、総持寺との折衝は予想以上に難航した。エスペラントに対しての信用がない。{エスペラントなんかで仏教や坐禅の話ができますか?}みたいな不信感があるようだ。日本仏教エスペランチスト連盟(JBLE)の前理事長だった佐村さんが生きていれば、とんとん拍子に話はすすんだのに、と悔しい思いがわいてきた(佐村さんは曹洞宗の中では有力な僧侶だったが、63才で急逝)。しかし、ともかくもOKが出た。2回催行でのべ80人の参加。まあまあ人気のあるコースだと安心した。

総持寺案内のため、あらかじめJBLEではメーリングリストに4人が参加して、共同で拝観ガイドを作成していた。また、坐禅の仕方・作法についても図解入りで説明してある。このエスペラント版ガイドを参加者すべてに渡すつもりである。これを読めば何とかなるはずだ。種本は「総持寺拝観案内」。英語版もある。私に元気があったら、かつて仏典童話翻訳のために東本願寺と交渉したように、総持寺まで出かけていって、エスペラント訳作成のための許可を受けるのだが、もはやエネルギーがない。厳密には著作権侵害だが、まさか訴えないだろう、とたかをくくることにした。(あとで、案内僧から「エスペラント版のガイドを資料として下さい」と頼まれたので、「どうか上層部には内密に」と言って渡しておいた。)

決行当日。私自身一度も行ったことのない総持寺(helpantolには下見をしてもらっていた)。不安を抱えながらバスが出発した。車イスの女性が一人いる。想定外だった。添乗員が電話して椅子を用意してくれることになった。とりあえず、バスの中でも諸堂拝観でも、私は通訳ガイドとしてまああの

出来だったと自負した。さて、参禅体験である。ここで、私の不安が的中した。外国人は(日本人も)脚をちゃんと組めない。結跏趺坐(けっかふざ)はもちろん、半跏趺坐(はんかふざ)も、正座も、あくらもだめ。何人かは、脚を前に投げ出している。直堂(道場の指導僧)はあきれているに違いない。もちろん口にはしないが、さて、坐禅を組ませながら、直堂が注意をあたえる。「あごを引いて！」...{あご??しまった、単語を忘れた!!}「あごってエスペラントでなんでしたっけ？」と、思わず口に出してしまった。これでは通訳失格である。数名の日本人参加者は誰も答えてくれない。私は帰りのバスの中で、謝った。誰かが、「いやあ、すばらしい通訳でしたね」と言ってくれたが、私はあごを忘れていたのが悔しかった。こういうときは、「斜め下45度を見るようにして」とでも言い換えればよい、と気づいたが後の祭りだ。

晩餐会。せっかくの晩餐会だから大枚はたいたのに...アルコールはドライビールだけ。食べ物はあつというまになくなった。一皿目に前菜メニューをとって、二皿目で主菜を取りに行こうとしたら、もはや料理が無い！晩餐会で何が悲しくてカレーやカツ丼を食べなくてはならないのか。給仕が空いた皿をさげに来るが、そんなこと、超のつく高級ホテルでしかないサービスだろう。人件費にかけるのを食べ物に回してほしかった。ベジタリアンは更に悲惨だった。ベジタリアン用の料理を別にしないので、彼らのための料理をノンベジタリアンが容赦なく取っていく。私の目の前のベジタリアンは空しくお茶をすすっていた。となりのインターコンチネンタルホテルのbuffetなら、ほぼ同じ料金ではるかに充実したメニューである。両隣の外国人は文句を言わないが、私は彼らに申し訳ない思いでいっぱいだった。9500円払ったが、実質1500円以下の内容だった。横浜というところは物価が高いのだろうか。セルフサービスのレストランで、小さなホットドックが600円するのは驚きだ。だから私はたいていコンビニで飯を買っていた。

四日目 8月7日(火)

総持寺観光2回目の催行である。前日の失敗を繰り返さぬため、辞書であご=mentonoを思いだし、バスでは坐る自信のない人を調べて総持寺には椅子を10脚用意してもらった(椅子禅というのはちゃんとあるのだ)。{昨日と同じだし、今日は楽勝！}と思っていたら、案内僧が昨日と違う。説明が短い。しかも拝観順路をショートカットしている。坐禅の仕方の説明もあまりしない。{せっかくあごを覚え直したのに...}それに今日はなんだか愛想がない。昨日の参加者にあきれた結果なのかと思ったが、どうやら今日は大きな法要があるらしく、忙しいからかも知れない。おかげで昨日はとれなか

った自由時間ができてよかったとはいえ、猛暑の中、境内を歩き回る元気のある人ばかりではないので、良し悪しである。

通訳ガイドをして思ったこと。一般的な傾向として、観光に参加する人のエスペラントのレベルは高くない。というか、あまりエスペラントが分からないので観光に参加するのだろう。私はバスの中では、なるべくゆっくり話すことを心がけた。それにしても、エスペラントがほとんど通じない参加者もいる。数字が正しく言えない。これじゃあ、私がいくら忠実な通訳をしても、禅堂で脚を投げ出してしまう人が出てくるわけだ。総持寺の当初の不信感は2、3割は正しかったといえなくもない。

仏教分科会。時間枠45分で、いちばん小さな部屋を注文しておいた。何しろ部屋をとるのは高いのだ。これでも80ユーロ。赤字続きのBLEとしては、これで精いっぱい。ここで、私は司会者であると同時に講演者でもあり、「日本仏教の歴史」について話す。奥脇さんのように原稿を用意してはいたが、原稿を読んでいると、聴衆の反応が分からない、という決定的な問題がある。話したいことはたくさんあるが、私の持ち時間はまたしても15分だ。昨日のKleriga Lundoの倍速で話す。私は今まで、外国人エスペランチストの話が速すぎる、と思っていたが、いざとなると自分がそれと同じようなしゃべり方になったことに気がついた。大会4日目でもあり、慣れてきたというもある。さて、質問の時間。アリーチャ・サカグチの質問は何とか答えた(と思う)。次の質問は、ソ・ギルスから。ソ・ジンスの兄であり、第一回日韓青年セミナーではベテラン格で参加し、私は彼にやりこめられた苦い思い出がある。「日本仏教の特徴は何か、他のアジアとどういう点で違うのか」と、しつこい。{知るもんか!}「私はそれらの国の仏教をよく知っているわけではないし、私は歴史の話をしたので、共時的な問題にふれるつもりはない」と逃げにかかったが、なおも追及される。{私はあなたのゼミの学生じゃないんですけど...}まあ、時間切れということどうやむやに。そしてここでも時間不足。BLE委員長のグンナ・ゲルモの話は15分を予定していたが10分に短縮、他の幹部のビル・マックに至っては3分に短縮せざるをえなかった。

仏教徒交流集会。これは大会とは別に、私が独自に企画したものだ。世界大会ではクリスチャンのための共同礼拝式というものがある。それと同じようなことをしたいと思った。ただし、LKK(国内大会委員会)もUEAもそのために尽力はしてくれまい。大会プログラムに加えてくれもしないだろう。大会の外で自分で企画し自分で宣伝しなくてはならない。私は自分が所